

地域デザインのためのインクルーシブ・データプラットフォームの構築

京都大学フィールド科学教育研究センター 徳地直子 / 京都大学情報学研究科 近藤一晃・中村裕一

本研究の目的

持続可能な地域社会をデザインするために、相互に関連する様々な地域データを集約できるインクルーシブ・データプラットフォームを構築する。パイロットケースとして、飛騨市におけるフィールド研究者・市民・行政のネットワークを対象とする。自然科学、歴史・文化、社会・行政に渡る多面的なデータの蓄積を行いながら、データの横断的な相互利用の促進とそのユースケースを蓄積する。

本研究で進めてきたこと ⇒ ①地域デザインに資する材料収集

生態学
心理学
地理学
社会
歴史や文化
建築
林学
教育
自然科学
健康
ビジネス
農林水産業
暮らし

トランスディシプリナリ (TD) 研究：市民交流会を開催

2024年5月18日 @飛騨市役所
のべ参加者数:50名(市長を含み市役所職員8名も参加)



情報発信HP

②データプラットフォームの構築⇒『学認RDM：インクルーシブ飛騨』の整備



- 異なる専門領域における研究データ保存先を一元化
- 研究データの種類も多岐にわたるが学認RDMに一括保存

<現在進行中のTD研究の内容>

- ①環境DNA調査 (昆虫・きのこ)
- ②市役所と共同で他出子を対象としたアンケート調査を施行
- ③農家さんへの聞き取り
- ④薬草
- ⑤木材加工
- ⑥シカ害
- ⑦広葉樹
- ⑧市民・地元高校生との環境に関するWS
- ⑨知識から行動変容への過程解明など

③『学認RDM』の活用と発展⇒地域デザインへ研究データの社会実装

TD研究で収集した様々な研究データを総合的にアウトプットし、市民が未来の地域を考えるための“地域デザイン”の材料へ昇華。

<統合のためのアウトプットイメージ：今年度末から検討開始>



参考：「まるやま本草」

この1年で研究者間の相互理解、地域とのつながり、データ収集が進んだ。多様な形式のデータの統合の方法と活用について、さらに検討が必要。

- ・地域内の人にとっては新発見 (あたりまえなことにも価値があることを共有)
- ・地域外の人にとっては新情報な「地域知」を見える化して提供することで『まちづくり・観光』へのシーズを整理し地域へ研究還元

研究協力者(順不同)

京都大学地球環境学 時任美乃理・浅野悟史・西前出
京都大学フィールド科学教育研究センター 張曼青・坂野上なお
京都大学学術情報メディアセンター 松下幸司
京都大学化学研究所 峰尾恵人
京都大学農学研究所 中津川柁太郎
福井県立大学 漆間アンドレア・石丸香苗
大阪産業大学 赤石大輔
国立情報学研究所 佐藤真一
森林総合研究所 酒井佳美・山下直子
農林水産政策研究所 法理樹里
飛騨の森でクマはおどる 井上彰
ヒダスケ 三井崇史
EDO 関口裕太
パナソニックホールディングス 中田公明・和田亨